

慢性腎臓病（CKD）の 早期発見と健康診断に ついて

Q1 健康診断は慢性腎臓病（CKD）の早期発見に役立ちますか？

腎臓の異常は二つの検査をおこなっただけで、比較的簡単に知ることができます。その検査は年1回の健康診断で、誰でも手軽に受けることができます。まずは「尿検査」で蛋白の有無を調べたり、「血液検査」で血液中の老廃物であるクレアチニンの量（血清クレアチニン値）を測定することで、自覚症状の乏しいCKDを見つけることができます。また、血清クレアチニン値、年齢、性別から、腎臓の

働きの指標である「糸球体ろ過値」を計算することができます。CKDとは腎機能が正常の60%以下に低下しているか、蛋白尿などの腎障害が3カ月以上持続した状態をいいます。従って、早期発見には健康診断を受けることが重要となります。

Q2 慢性腎臓病（CKD）を放置するとどうなりますか？

CKDは原因にかかわらず腎臓の障害や働きの低下が慢性的に持続する状態をいいます。その多くは自覚症状のないまま腎臓の機能が徐々に低下し、進行



していたとき、経過に応じた適切な治療を始めるためにも、定期的に健康診断を受けることをお勧めします。

してから倦怠感やむくみなどの症状がでるため、病気に気がつかないことが少なくありません。最終的には腎臓が機能しなくなる腎不全となり、透析療法や腎移植が必要となります。また、腎臓の機能が低下すると、脳卒中や心筋梗塞など全身の病気の発症にもつながります。心筋梗塞は生命を脅かす病気であり、脳卒中は寝たきりの原因となる病気です。このような病気を防ぐためにも、CKDをできるだけ早期に見し、適切な治療を受けることが重要です。わが国のCKD患者数は約1,330万人と推計され、成人の8人に1人はCKDとなり、新たな国民病と呼ばれています。近年の検討では、CKD患者数は1,480万人、成人の7人に1人と更なる増加傾向にあり、私たちにとって非常に身近な病気だと考えられます。

Q3 生活習慣病との関連はいかがでしょうか？

生活習慣病とは過食、運動不

足、喫煙、過度の飲酒など生活習慣が深く関与していると考えられる病気の総称です。具体的には毎日の良くない生活習慣の積み重ねによって起こる病気のことをいいます。CKDの発症や進行には高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病やメタリックシンドロームが深く関わっています。透析医療を必要とする原疾患別割合は糖尿病治療の進歩にも関わらず、糖尿病性腎症が第1位となっています。高血圧はCKDを悪化させるだけでなく、CKDも高血圧の原因となるので、血圧管理が必要となります。また、メタリックシンドロームの構成因子数が増加するほど、CKDになりやすいことがわかっています。従って、糖尿病や高血圧などを治療するだけでなく、生活習慣の改善をおこなうことにより、CKDの発症および進行を予防することができますので、生活習慣の改善は末期腎不全に至る患者を減らすとともに、CKD患者に合併しやすい心血管病を防ぐことにつながります。できるだけ早期に腎臓の状態を把握



今月の先生 岐阜市民病院 腎臓内科
高橋 浩毅

○**役職**
腎臓内科長
腎臓内科部長

○**主な資格**
日本内科学会内科指導医・認定内科医
日本透析医学会透析専門医
日本腎臓学会腎臓専門医

○**卒業年、主な職歴**
平成2年卒